

日吉台地下壕保存の会

会 報

第13号

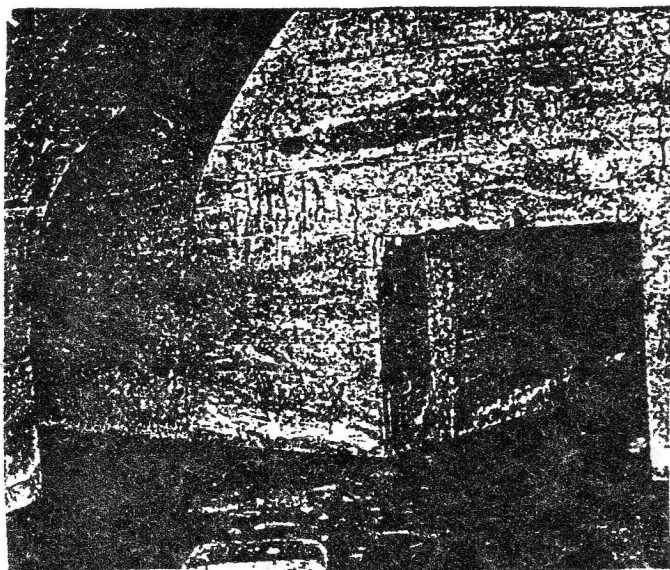
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

☎ 045-562-1282 (寺田貞治方)



川崎市蟹ヶ谷の元海軍通信隊の地下壕。戦時中は海軍の基地や艦隊からの受信基地で、日吉の連合艦隊司令部とケーブルでつながっていたという。

目次	頁
○日吉台地下壕保存の会と私	1
○お知らせ	2
日吉台地下壕見学会	
○第3回幹事会報告	2
○第4回幹事会報告と その後の活動報告	3
○日吉台地下壕の思い出	4
○「強制連行・強制労働を考え る全国交流集会」参加報告記	5
○保存会セミナー「田中伸尚 先生の講演」をきいて	6
○日吉台地下壕見学会感想文 駒林小学校PTA	6
日吉台西中学校PTA	7
○編集後記	8

日吉台地下壕
保存の会と私

幹事 亀岡 敦子

ひよんな事から「地下壕保存の会」の幹事の一員となつて一年近くなりました。

二・三年前から、男の子をもつ母親として、我が子を戦場に送るような事は決してしたくないと思い始めていました。

いったいあの頃、私の祖母達の世代の日本の女は何を思い、息子を戦場に送るため白い割烹着姿でバンザイを叫んでいたのか。私はその年齢に達した今、教えられなかった歴史の事実を知らなければならぬと強く思っています。

女は常に戦争の被害者の顔をしているけれど、それと表裏一体、加害者の顔も持っているに違いない。その顔と真正面に向き合うことが、私達母親の次の世代への義務ではないかと考えています。

この一年間で知り合った人々や知識は、楽しく、私に無理をせず、活動することの大切さを教えてくれました。じつくりと腰をすえて前向きにつきあってくつもります。

お知らせ

◎日土ロム口地下壕

見学会△△

日時 九月二一日(土)

午後1時半

場所 慶應大学日吉

藤山記念館大会議室

定員 三〇名。ただし、中学

生以上とする。

申込 九月一五日まで、往

復葉書で、住所・氏名

・電話番号をお書きの

上、事務局に申し込ん

で下さい。定員になり

次第締め切りますので

御了承下さい。

服装と携行品

汚れてもよい服装、帽

子・長靴・手袋・懐中

電灯・筆記用具を持参

注意

見学の際には、案内者

の指示にしたがって行

動し、謙虚な気持ちで

戦争と平和について考

え、歴史を学習して下

さい。入口の民家で地

下壕の水を利用して鯉

を飼っているの、水

こと。汚れた長靴はそ
のまはいて帰るか、
ビニールの袋にいれて
持ち帰して下さい。

第三回松竹車手△△報生口

日時 七月八日

場所 藤山記念館中会議室

報告事項

○事務局長より

●一、会員数二三八六名

●二、六月二一日：川崎市

「ふれあい館」の中根氏より、

在日朝鮮人中学・高校生と来

日する予定の韓国中学・高校

生を対象にした地下壕見学会

を行いたいとの要望があり、

地主の方の了解を得て行うこ

とになった。

●三、六月二五日：有隣堂出

版主催で、保存会から寺田、

横浜大空襲を記録する会から

今井氏、連合艦隊司令部にお

られた電気長の菅谷氏による

日吉台地下壕をめぐって座談

会がもたれた。この記事は有

隣堂から「有隣」という新聞

に掲載される予定。

●四、六月二八日：慶應の国

際関係会主催で、会の学生と

国際交流で来ている外国人学
生九名を含む二四名で、地下
壕を見学した。その後、第二
次大戦について活発な質疑応
答があり、有意義であった。

●五、七月七日：日吉台西中

学校PTAが地下壕見学の予

定。日吉地区センターで、一

時間レクチャー。

●六、七月一四日：保存会セ

ミナー。田中伸尚氏の講演を

予定。

●七、八月四日：川崎市「ふ

れあい館」の地下壕見学予定。

●八、八月一一日：八王子地

下壕見学会予定。

○議事

●一、保存会セミナー(田中

伸尚氏の講演会)について

日時：七月一四日(日)

午後二時三〇分

場所：藤山記念館大会議室

進め方：受付、記録、司会

懇談

その他：ポスター、講師謝礼、

車代、

●二、高尾の地下壕見学会

日時：八月一一日(日)

午後二時

集合場所：JRまたは京王線

高尾駅南口改札口
進め方：参加費の徴収、挨拶

案内者の話、地下壕
見学、浅川市民セン

ターでレクチャー

●三、地下壕の調査と記録の

進め方について

八月七日(水)幹事会の後、

記念館裏の地下壕の調査、続

けて、八月九日(金)、八月

一三日(火)、八月一六日

(金)に予定。

●四、聞き取り調査について

名簿を作成し、手分けして当

たる。

●五、日吉台地下壕の見学会

について

九月二一日(土)

一時三〇分～二時三〇分

藤山記念館大会議室で説明

二時二〇分～四時

地下壕見学

●六、保存運動の進め方につ

いて

区役所で、今後の方針を聞く。

議員に相談する。

●七、パンフレットの発行に

ついて

今までにまとめたものを基に

作成する。

●八、会報第一二号について感想文が良かった。戦争体験の無い若いお母さんが、あれだけ感じるのは大変なことだと思った(小園)。

●九、会報一三号の発行について

八月下旬に発行する。内容は、行事の報告と今後の予定、全国集会の報告など

●一〇、その他

全国集会への派遣について

第四回松井市市△△出版口日時 八月七日

場所 藤山記念館中会議室

報告事項

○事務局長より

●一、会員数 三九五名

●二、七月七日：日吉台西中学校PTAが地下壕見学。日

吉地区センターで、一時間レクチャー。四〇名参加。

●三、七月一四日：保存会セミナー。田中伸尚氏の講演。

三八名参加。

●四、七月二八日：茂呂先生が父母と生徒一〇人で日吉台地下壕見学。

●五、七月三〇日：東京新聞

記者と会談。八月七日の東京新聞に掲載予定。

●六、八月一日：有隣堂出版発行の「有隣第二八五号」に地下壕に関する座談会の記事が掲載。

●七、八月四日：川崎市「ふれあい館」主催の地下壕見学会を行った。

在日韓国中高生数名と、交流活動をしている日本の女子高生数名の他、韓国から参加した中学・高校生一八名、ふれあい館関係者数名が参加。

NHKテレビが来ていて、九日の午後六時からイブニングニュースと、八時四十分からのNC845で放映予定。

●八、八月六日：記念館裏の地下壕と蟹が谷の地下壕の下見をした(寺田、茂呂)。

●九、一〇月一二日：矢上小学校家庭教育学級で地下壕見学予定。

●一〇、一〇月二六日：駒林小学校PTAで地下壕見学会予定。地区センター一三時。

●一一、一一月一二日：日吉台南小学校PTAで地下壕見学会予定。日吉台南小一〇時。

●一二、十一月三〇日：神奈川県高校社会科教員団体の地下壕見学会予定。

●一三、その他、川崎市の木月小学校教職員、慶應の教職員などが見学を希望。

●一四、映画「戦争と青春」、九月一四日公開。特別鑑賞券大人千二百円(割引券千八百円)、中高大生千円(割引券九百円)、小学生八百円(割引券七百二十円)。問い合わせは事務局まで。

○議事

●一、保存会セミナー(田中伸尚氏の講演会)について

感想：①膨大な資料を調べておられることが、凄いと思う。②このようなお話を若い人に聞かせたい。③参加者が多いとよい。もっと宣伝すればよい。分かりやすかった。

●二、高尾の地下壕見学会について

案内者は豊島氏

●三、地下壕の調査と記録の進め方について

八月一三日(火)実施

午後一時三〇分

日吉駅西口バス待合所集合 普通部南の地下壕調査

●四、日吉台地下壕見学会について

幹事は午後一時に集合。事前にアンケートを作る。

●五、保存運動の進め方について

港北区の区長に会って話を聞き、これまでの経過を踏まえて、保存の要望をする。

問題は道路から直接はいることが出来る入口を確保することである。入口の整備と泥の除去にかかる費用を、専門家にみてもらう。整備保存の要望するとき、横浜市役所の窓口はどこになるか。地下壕の管理をどうするか。市も慶應も事故が起こったときの責任を最も問題にしている。

◎その後の活動報告

①八月九日：NHKテレビ午後六時から「多民族共生時代」という番組の中で「ふれあい館」の地下壕見学を約二

分間放映。

②八月一日：高尾の地下壕見学。二三名参加。

午後一時三〇分

③八月一二日：TBSが、午後二時より地下壕をビデオ撮影。

④八月一三日：普通部南の地下壕調査。テレビ東京が下見に参加。

⑤八月一四日：午前一〇時に茂呂幹事と事務局長の二人が、港北区の区政推進課の課長と係長に会い、約二時間ほど保存について話し合った。

壕そのものの保存については消極的で、記録の保存、資料の収集については関心があつた。記録の保存について今年度予算申請したが通らなかつたので来年度は申請できない。しかし当時の人が高齢であるので、当時の資料の収集や記録の保存は考えなければとの事であつた。これについて

は、神奈川県が一九九一年開館をめざして費用百五十億円で建設を予定している「国際こども館・平和館」が、資料の提供を呼びかけている。県の方にも連絡を取って調べたらどうか。区の窓口としては、適当なところはないが、もって行くとすれば総務局の

文書課になるだろう。以前国際・平和交流について検討したことがあつた。土砂の流入が激しいところがあるので、保存と切り放して崖崩れなどの防止の目的で、壕ので入口が整備できないか。など話し合った。

⑥八月一四日：テレビ東京が、一時より普通部南と蟹ヶ谷の地下壕をビデオ撮影。産経新聞記者も同行した。

⑦八月一五日：TBSビッツグモニングという番組で、午前七時三十分より八分間、日吉台地下壕を放映。

産経新聞にも掲載。

⑧八月一七日：テレビ東京がNイブニングという番組で、午後六時一五分頃、約四分ほど地下壕を放映。

日土ロム口地下壕 の田心い出山

安藤 喜代司

昭和二〇年八月一七日熊本県菊池の特攻基地から夜陰にまぎれて脱走し、横浜の我が家へやつの思いでたどり着きました。幸いな事に家は空

襲の被害にあわずほとしました。が、勤めていた造船所は鉄が無い。ため何の仕事もなく、親子七人食わしていかなければならぬ。長男の責務を感じ、つてを求めて日吉の慶應大学に進駐してきた米第八軍通信隊の将校食堂にボーイとして働き始めました。現在は一歩を除いて殆ど廃屋になっておりますが、台地の一番南側に三棟ある三階建ての元学生の寄宿舎の一番北側の一棟が食堂で、三棟には約百人の将校が寝泊まりしておりました。現在の高校の校舎には、机を全部取り払って約七百人の米兵がおりました。戦争中に聞いた「鬼畜米英」という言葉はとんでもないことで、毎日の料理の残りを全部家に持って帰って、お父さん、お母さん、兄弟に食べさせなさいと私に与えてくれました。そのおかげで家族全員丸々と太って配給米など余るぐらいでした。その時、暇を見て懐中電灯を持って興味深げに友人と二人で食堂の横にある入口から長い階段を下りて地下

壕に入り、ずい分大変なものを造ったものと感心しました。壕の中には天井に通風筒が張り巡らされており、いろいろな機械や、会議室のような広い部屋には書棚やテーブル・椅子、又広い通路にはベッドがあり、書類やボール箱が散らばっておりまして。その内、近所の人達や様子を知らしている人達が、山の下の方から中に入り殆どの物を全部もって行ってしまいました。やがて日吉の駅にパンパン（米兵相手の売春婦）がたむろするようになり、一時期には毎晩二〇人位が兵隊と駅の周辺で交渉している姿が見え、一般の人は気持ち悪がって夜暗くなると、日吉の駅や町の中は殆ど人通りがなくなりました。パンパンはグランドの周りや地下壕の中で商売をし、無警察状態が続きました。その内黒人の兵隊が何かのいざこざで地下壕の中で殺された事件がありました。

連合艦隊司令官が日吉に移って間もなく、恐らくスパイが通報したのでしょうか、米軍

の知る所となり、日吉が空襲に
あいい一般の民家が大部分焼
けました。こんな立派なコンク
リート造りの校舎であるにも
かかわらず上級将校達は、自
分のみの安全を一〇〇パーセ
ント守るために地下深く壕を
掘り、空襲警報になるといち
早く地下に退散するという卑
劣な行為を取って来ました。

昨年上野から靖国神社へと
桜見物に行ったときの事です
が、靖国神社の参道横の植え
込みの中で、多勢の人がムシ
口の上で酔っぱらってドンチ
ャン騒ぎをしているのを見て、
これでは国のために命を落と
した英霊もたまったものでは
ないと思いました。

今少なくとも日本を侵略し
ようとする国は先ず無いとい
つても過言ではないと思いま
す。いたずらに軍備に無駄な
金を費やして毎日戦争ごっこ
をしている様子を見ると、本
当に腹立たしい思いがします。
防衛費の半分でも社会福祉に
廻したらどんなに素晴らしい
国になるでしょうか。

くだらない戦争を絶対に起

こさせないよう、戦争の愚か
さを知らない世代の人達によ
う、日吉台の地下壕を永久に
保存し後世に伝えなければな
りません。

「強制連行・強 制労働」を考へる 全日本文化交流集△△」 参加報告口記

小園 優子

去る七月二七・二八日の
二日間、兵庫県西宮市で、第
二回目の全国交流集が開か
れました。一昨年五月の韓国
ノ・テウ大統領の来日を一つ
の契機として朝鮮人強制問題
がクローズアップされたこと
もあって、この一・二年各地
でこつこつと調査にかかわっ
て来た人々が、この集會をき
っかけに大きく交流を始めま
した。

昨年第一回目の集會に、私
達の会ではメッセージを送る
にとどまりましたが、今回は
幹事会で討議の上、正式に賛

同団体として加入、同時に集
會にも参加することになり、
行つて参りました。

暑いさなかでしたが、昨年
にもまして八五団体、四百数
十名の人々が西宮市の勤労会
館につめかけ、西宮市長（代
理）の挨拶を皮切りに、記念
講演「強制連行」の調査の
課題と展開」という題で、朴
慶植氏の熱のこもった話に耳
を傾けました。「戦後四五年
遅きに失したとはいえ、今や
らねば永遠に闇の中に葬りさ
られてしまう」という言葉が
心に残りました。

その前後に、各地で各様に
取り組んでいる二〇団体ほど
の市民の会の代表がかわるが
わる登壇し、三分間スピーチ
が行われました。私も日吉台
地下壕についてのあらましと
現状を訴えました。「慶應の
キャンパスの下に、そんな凄
い地下壕があつたんですか！」
とびっくりされ、かつて慶應
で学んだ事のある人すら「知
らなかつた！」という声を聞
き、もっと沢山の身近な人々
にも、太平洋戦争下の実態を

知って頂かなくてはと思つた
次第です。

全体集會のあと、一〇の分
科会に分かれて、報告と討論
が行われました。どれも魅力
ある分科会で、あちらにもこ
ちらにも出てみたい欲望にか
られました。当面、日吉の
地下壕と最も関係のありそう
な第五分科会「地下工場・地
下軍需施設建設工事と強制連
行」という話合いに参加しま
した。

この分科会では、「トンネ
ルの暗闇の中に真実の歴史を
照らす光がある」というキャ
ッチフレーズで、これまでの
調査・研究の成果を発表しあ
い、今後どの様に戦争の爪跡
を保存して行くのかという保
存の取り組みの話まで聞くこ
とが出来ました。会場で配ら
れた夕食の弁当を食べつつ、
八時まで話合いが重ねられ、
そのあと阪急電車でゆられて、
宿泊先の甲陽園駅の近くの神
戸学生青年センターという所
に行きました。

宿では各自おもしろいおもしろい
交流が、午前二時まで繰り広

げられ、全国各地のいろいろな方々と心ゆくまで語り合ひが続きました。「神奈川県は全国でも一番地下壕の多いところですから、しっかりとやって下さい」と誰やらに声をかけられ、一番たくさんあるにもかかわらず、一番遅れているなあと実感したことしきりでした。二日目はワールドワークとして甲陽園の地下工場跡に入りました。ひと一人が横になってやっと通れそうな民家の軒先を這って壕に入り、例の（敗戦の時に、強制労働の朝鮮人が祖国独立の喜びに満ちあふれてかいたと思われる）壕の壁に刻まれた「朝鮮国独立」の文字を目のあたりにしました。

そのあと、甲陽園小学校で映画「アリランのうた」沖繩からの証言を見たあと、しめくくりとしての全体集会が同じ会場で開かれ、来年の第三回集会を広島で開くことを確認して、二日間の幕を閉じました。

全国各地で、たくさんの人々が、真摯に取り組んでいる

姿に胸うたれ、励まされて帰ってききました。この成果を保存の会でも今後生かしていくかなくてはと思っております。使い捨てにされ、放置されたまき、連行者の名簿さえ提出しない政府に対し、戦後補償をさせる運動を続けて行くのが、私達の戦後責任であり、日本が世界に信頼される道でもあると確信しています。

保存の会セミナー

田中伸尚先生との講演演説を聞いて

馬養 貞子

学生の頃、歴史を学んだ「戦争」であるが、何も理解できずに表面に浮いている活字のみを覚えたまま今日まで過ごしてきた。地下壕保存の会に入会し、この頃ようやく（少々遅いかも知れないが）どうして？何故？と思うようになってきたので、とても興味深く聞かせて頂いた。

私にとっては、薄いベールが一枚はがされていくようなもので、中には気の遠くなるような膨大な資料の山があっ

た。それらを要約し、分かりやすく説明して下さるには、どれほどの日時を費やされたのでしょうか。ほんの少し背景が見えた思いだった。戦争を体験しない世代でも、日本人として、もつと知るべきだと思つづく思つた。

日吉台地下壕見学会感想文

駒林小学校PTA

日土ロム口地下壕の目見学を終りて

地下壕を出ると、子ども達の明るい声が遠くに聞こえ、太陽がまぶしく感じられた。足元を見ると長靴は泥だらけであつた。

私は今、戦時中に作られた連合艦隊司令部の見学を終えたところである。

中は真っ暗で、持参した懐中電灯は役にたたず、ガイド役の寺田先生の持つビデオライトが唯一、中の様子を明るく映し出してくれた。

幅三、四m、高さ三mのトンネルがH型に組み合わされ、内側はコンクリートできれいに仕上げてあつた。ただし、

足元は泥と地下水でぬかっっており非常にすべりやすい。暗号隊の部屋、水洗トイレ跡、発電機設置跡、と説明を受けるが当時の様子がもう一つピンとこない。

トンネルの天井にゲジゲジの群れを見たときは思わず帽子をかぶりなおした。そして早く外に出たいと思つた。

よくこんなに立派な地下壕を、戦争末期に作ったものだと感心した。

見学を終えて、一週間、二週間と時間が経つが、自分の目でみた地下壕は消えない。そして戦争の二文字と重なる。私の故郷は広島で、今も、

原爆炸裂直下の建物が異様な姿を残しております。そして原爆資料館と対になって「戦争の恐怖」を現代の人に伝えております。

時が流れ、平和な時が続く、「戦争の恐怖」を伝える生き証人が少なくなつてきています。

この度のイラク戦争も、テレビを通じて知るだけで、実態を知る人は少ない。ピンボ

イント爆撃はテレビゲームのようだという人もいます。

子ども達が「戦争と平和」を考えるきっかけとして、また子供達が大人になり、自分達の子供に「平和の大切さ」を語るために、そして日吉の歴史を語り継ぐ遺跡としてもこの地下壕を整備保存し、活用して欲しいと思いました。

寺田先生、関係者の皆様、今回は貴重なお話と体験をさせて頂き、どうも有難うございました。(父親)

日吉ロム口地下壕 に入つて

何しろ始めての体験で、びっくりすることばかりでした。こんなに立派なものがある事も知らなかったので、とてもいい体験でした。子供達にも見せてやりたいと思いました。

お話もよくわかり、楽しい一時でした。(丸橋)

日吉台地下壕見学会感想文

日吉台西中学校PTA

成人教育委員会

日吉台地下壕の見学会を西中人係の企画として持たせて頂き、本当に有難うございました。参加希望者が多く、抽選でお断りした方も沢山ありました。又、PTAの行事

としては男性の参加申込が多かったことも含めて、思った以上に地下壕への関心は深いと感じられました。

寺田先生の話を聞き、実際に地下壕に入つて見ることで「戦争」が身近な具体的なものになり、住んでいる日吉の町も近郊のベッドタウンとしての、のっぺらぼうなイメージから歴史を持った町(当り前ですが)として自分の中で生き生きとしてきます。もつと沢山の人、子供達に地下壕を見て貰いたい。そのために地下壕の整備・保存がされなければと思います。

自分達が住んでいる地域の戦争当時の歴史をきちんと見つめることで、むしろ現在の私達を癒す何かを貰える気がします。その事も戦争を記録する作業の一つの側面として大切なことと思えます。

先日、兄に地下壕の話をしたところ「子供の頃遊んで隔から隔まで知っている」との事で、たて穴のはしごを降りてテニスコートの入口に抜けたりしていたようです。古い竹ぼうきとコールドールで照明を作つて入ったなどとい

ていました。蛙なんかを捕まえて食べるために、マツチ、塩を必ず持ち歩いてた昭和三〇年代の悪がきの姿が目につかびます。

父は横須賀の艦政本部で特殊航艇の設計などをしていた技師ですから、海軍の疎開の話はしていましたが、日吉に住みながら地下壕は見た事がありませんでした。私にとつては見学会に参加することで、ぼんやりとした昔の日吉の風景や子供時代の防空壕の噂などが、やつとはっきりした像を結んで見えて来たわけです。

(成人係 喜田美登理)

戦争をぐつと近いものに感じました。特に寺田先生のお話は、分かりやすく、極普通に戦争の事、戦後の様子など

話されるので、感心して引き込まれてしまいました。

自分の住んでいるところに対する愛着を持つためには、やっぱり歴史を知ることが一番ですね。と言う訳で早速保存の会にも入会し、いろいろ勉強していこうと思います。素晴らしい企画を有難うございました。

(1年2組 小林)

縁あって日吉に住んで五年がたちました。機会があれば、一度はぜひ見学させて頂きたいと常々思っていました。

このまま埋もれさせてしまふには、余りにも大きな歴史の一部分として、もったいないと思います。中一、中三の子供達にもぜひ見学させたいと思います。

お客様をお呼びしても、ご案内するところもない日吉に、こんな凄いものがあるなんて大きな声で皆さんにお知らせしたい気持ちです。

寺田先生はじめ保存の会の方々頑張つて下さい。お世話を頂き有難うございました

(1年3組 田尻a)

学生の中から存在は知っていたが、中へ入る機会を得ました。

戦時中に作られたとはいえず、内部にはそれを感じさせる設備が残っていないためか、寺田先生のご説明がなければ、何のために作られたものかわからず、現在のように立ち入りも不自由であれば、何れも地域在住者にも知られず消滅してしまうことも考えられます。ともすれば曖昧にされがちな第二次大戦関連の歴史を正確に保存し、次代に伝えるために保存運動に参加したいと思っています。

(1年3組 田尻ト)

激変する世界の動きをテレビ等で見たときに、「日本に生まれてよかった」という子供たち。日本の侵略の歴史についてはみるものの表面的にしか伝えられない。そのような日々の中、地下壕見学の話が西中成人教育係の活動の一つとして持ち上がった。日吉の慶應の森の下に連合艦隊司令部が地下壕を造り、それが現存し

ているというのである。日吉の町は、司令部の他、海軍の重要な機関が慶應のキャンパスに移ってきたために、空襲にさらされたと言う。話を聞けば聞くほど、正に「見ないでどうする」という思いであった。

この地下壕は、日本人労働者の他に、朝鮮人労働者によっても掘削されたこと知らされた。メディアで聞く満州や朝鮮からの強制連行、強制労働の話が、ここ横浜のしかも地元日吉の中で行われていたのである。戦況も知らず、過酷な労働条件のもとで、最も危険な作業に駆り出された異郷の人々の気持ちを思うと複雑な思いに打たれる。

日本の国が、その国民や周辺諸国の人々も巻き込んで強制してできた地下壕。この地下壕の見学は、世界の中で、これからどのように生きていくべきかを考えるよい機会であったと思う。

(2年1組成人係 赤瀬)

この度は大変お世話になりました。有難うございました。

地下壕は私が想像していたよりもずっと大きく、深く、その設備が立派であったことなど全ての点で私を圧倒いたしました。

家へ帰り、いろいろと主人に説明致しましたが、やっぱり見たことが無いかと思えないのでは無いかと思えました。私は、今にも崩れそうな素掘りの狭いトンネルを想像していたんですよ。

見学してから日がたつにつれ、地下壕があった事の重大さをひしひしと感ずるようになりました。保存会の目的にもありましたように、平和記念の史跡として保存し、「平和記念資料館」を建設して頂きたいと思います。主人も保存会に入会することになりました。

このような素晴らしい体験をさせて頂いて本当に有難うございました。皆様には深く感謝しております。

(3年3組 岡野)

恒欄集末後記

◆戦争と平和が語られる8月も終わろうとしています。今年も事務局には新聞社やテレビ局から連絡があり、地下壕の取材につきあいました。

◆また全国の多くの関係団体とのコミュニケーションも深まりました。

◆私達の保存の会も全国的に知られ、注目されるようになってきました。

◆地域でも関心が高く、秋には幾つもの見学会が予定されています。

◆今回も見学会の感想文その他多くの原稿が寄せられました。有難うございました。

◆何れの原稿も平和に対する熱い思いと保存の必要性が述べられていました。このような声に支えられて、私達も頑張らなければと思っています。

◆今後とも温かい御支援御協力をお願いします。